



Myopine



本製品は Atropine(アトロピン)0.01%配合のお子様の近視進行を抑制するための目薬です。

Myopine(マイオピン)とは、小児期の近視の進行を軽減させることを目的にアトロピンを0.01%配合させた点眼薬で、Singapore National Eye Centre (SNEC: シンガポール国立眼科センター)の下記の研究に基づいて開発されています。^{*1)}

マイオピンの特徴

- 副作用がほぼ皆無の良好な近視抑制薬と言われております。
- 近視の進行を平均60%軽減させると言われております。
- 日中の光のまぶしさに影響を及ぼさないため、サングラスもほぼ不要です。
- 目の遠近調節機能(手元を見る作業)に殆ど影響を与えません。
- 近見視力の低下に殆ど影響を与えず、更に進行性眼鏡も不要と言われております。
- 毎日たった一滴点眼するだけの、非常に簡単な治療法になります。
- 各容器(1本・5ml)は両眼用に1ヶ月間の使い切りになっております。
- 本製品はGMP(医薬品製造管理および品質管理基準)準拠の工場で製造されています。

マイオピンは近視の症状を有しているお子様(6歳から開始)への処方が可能です。処方の際は少なくとも2年間使用を継続することをおすすめいたします。

近視の進行を抑制することが大切な理由

近視は高度な近視の場合、回復不可能な視力喪失、黄斑変性症、網膜剥離、または緑内障に発展する可能性があります。最近の研究によりますと、東アジア諸国、即ちシンガポール、台湾、香港、及び日本での近視の有病率及びその重度は上昇する傾向にあることが指摘されており、具体的には60~80%の青年が近視を患っており、15~20%が高度近視であることが確認されています。この傾向は、目の病気の増加から財政的な負担も増えると考えられています。



参考文献

- * 1) Chia A, Chua WH, Wen L, Fong A, Goon YY, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: changes after stopping atropine 0.01%, 0.1% and 0.5% (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン0.01%、0.1%、及び0.5%を点眼終了後の変化). Am J Ophthalmol. 2014 Feb (眼科: 2014年2月); 157 (2): 451 - 457. e1. doi: 10.1016/j.ajo.2013.09.020
Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% doses (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン0.5%、0.1%、及び0.01%を点眼した場合の安全性及び効能(進行度2の近視治療にアトロピンを使用した場合)). Ophthalmology. 2012 Feb (眼科: 2012年2月); 119 (2): 357 - 54. doi: 10.1016/j.ophtha.2011.07.031.
Tong L, Huang XL, Koh AL, Zhang X, Tan DT, Chua WH. Atropine for the treatment of childhood myopia: effect on myopia progression after cessation of atropine (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン点眼終了後の近視進行に対する効能). Ophthalmology. 2009 Mar (眼科: 2009年3月); 116 (3): 572 - 9. doi: 10.1016/j.ophtha.2008.10.020 Epub 2009 Jan 22.
Chua WH, Balakrishnan V, Chan YH, Tong L, Ling Y, Quah BL, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia (小児近視治療用アトロピンについて). Ophthalmology. 2006 Dec (眼科: 2006年12月); 113 (12): 2285 - 91. Epub 2006 Sep 25.

マイオピン点眼薬が選ばれる理由とは？^{わけ}

マイオピン(アトロピン配合)点眼薬は、近視の進行を遅らせるという点で統計的にも臨床的にも有意義な効果が確認されている唯一の治療法です。アトロピン1%は1960年から、すでに近視治療用に使用され続けています。

しかしながらアトロピン1%は下記のような不快な副作用を引き起こします。

1. 瞳孔がひらき続けることによる、まぶしさと強い光による不快感や目の痛み
2. 目の遠近調節機能(手元を見る作業)が低下し、近くの物がぼやけて見え、読み書き等近くを見る必要がある作業が困難になる
3. アレルギー性結膜炎及び皮膚炎

マイオピンは、最適な超低濃度(0.01%)のアトロピンを点眼することにより、近視の進行スピードを効果的に抑えると同時にアトロピン1%点眼薬のような不快な副作用を回避します。

マイオピンは安全ですか？

シンガポール国立眼科センター(SNEC)の研究によりますと、アトロピン0.01%の効果は点眼を2年間継続した後によるものです。^{*2)}

1. アレルギー性結膜炎及び皮膚炎の報告はありませんでした。
2. 眼圧(IOP: Intraocular eye pressure)に影響を与えないとの報告でした。
3. 白内障を形成するとの報告はありませんでした。
4. 点眼終了後も目の遠近調節機能の低下、また瞳孔がひらき続けてしまうという報告はありませんでした。
5. 電気生理学上、網膜機能に影響を与えるという報告はありませんでした。



参考文献

*2) Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% doses (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン0.5%、0.1%、及び0.01%を点眼した場合の安全性及び効能(進行度2の近視治療にアトロピンを使用した場合)). Ophthalmology. 2012 Feb (眼科: 2012年2月); 119 (2): 347 - 54, doi: 10.1016/j.ophtha.2011.07.031.